養殖ワカメに成功 牛深

水俣地方 テングサとり始まる

水俣地方では特産のテングサ取りが始まった。一方、牛深・河浦地方ではワカメの養殖業が盛り上がっている。春の海に拾った〝生産の歌〟二題。

【水俣】梅已湾の袋湾二子島付近では毎日五、六十人が海岸の岩場でテングサを取っている。潮がひいたあとの二、三時間の仕事だけに一家総出の作業。平均一人で一日に四、五㌔、なかには十四、五㌔もあげる人もいるという。

舟からの採取は竹の先にカギと鎌をつけたもので取るが大きいのが取れるので、手で取るよりも収穫はぐっと多い。採取したテングサは干し上げて水俣漁協に一括集荷、熊本、鹿児島方面の問屋にさばかれるがこのほど行なわれた初入札ではキロ当たり二百八円で引き取られた。一家三人が三日間で七十一・二㌔、一万四千八百円をかせいだ人もあるというから主婦たちはホクホクだ。

【牛深・河浦】昨年七月県水試牛深分場の指導で牛深市久玉町に四カ所、牛深町に二カ所、河浦町宮野河内に二カ所と計七カ所で養殖テストを行なった。ワカメの養殖は四、五月ごろ天然ワカメの芽カブを採取し、放出される胞子をタネナワに付着させて培養させる。このタネナワを十一月ごろ、いかだにつり下げて本養殖に入り、一月から二月にかけて収穫する。

本養殖の結果は、内海に面した宮野河内と久玉町がとくによく、久玉町ではタネナワ一㍍に約二㌔もの収量をあげた。養殖ワカメは味がよく柔らかいので早期出荷すれば一㌔五百円から八百円の高値を呼ぶ。経費はナワ一㍍について五、六十円ていどなので、収益が多く、そのうえスプのしろうとでも手軽に取り組めるのが魅力だ。

このため今年はワカメ養殖の希望者が大幅にふえ、同分場にタネナワの注文がすでに約十万㍍に及んでいる。これは昨年のざっと百倍。特に宮野河内漁協では百九十人の組合員全員に養殖させることにしており、部落ごとに漁場を設けて三一五人のグループ単位に行なう計画。また牛深町では漁業にはしろうとの非組合員が多いので、意欲を燃やしているものの漁場の確保が問題となり、漁協とも相談したいと言っている。

写真❶は水俣地方で始まったテングサ採取❷は養殖テストに成功したワカメ＝牛深市で